

石 すとん・さーくる

No.101

発行 新潟県石仏の会(代表 星野 紀子)

2018年3月15日 発行

事務局 TEL945-0837 柏崎市三島町16-2 渡邊三四一 電話0257-22-1941

ホームページ <http://niigata-sekibutu.voxx.jp>

石 仏 散 歩

無為信寺の行人塚

阿賀野市 岩野笙子

阿賀野市の無為信寺に行き塚が建立されている。

土地の人は「生き塚様」とよび、タバコを供えて祈ると病気が治ると言われている。特に子供の咳や夜泣きがなるると言われ、人々に信仰されている。

もともとは、旧水原町学校町二番地内に建立されていたが道路の拡張のため、昭和四十八年に無為信寺境内墓地に移転したという。

仏性山金剛院「無為信寺」は文永年間（一二六四～七五）に親鸞上人高弟二十四人（二十四輩）の一人、無為信房（一一八六～一二六四）によって創建された寺で、真宗二十四輩本座十一番の旧跡である（真宗大谷派）。無為信寺境内にある経蔵の右奥に行き塚が建立されている。延享元年（一七四四）に造立した日本回国供養塔の右側に、寛延二年（一七一六）の入定塔（行人塚）があり、「寛延二巳巳年 入定淨欣塔 十月朔日」と記されている。

土地の人々には「昔日本全国を回国して、生きながら入仏した行者がいた。タバコが好きな人であった」という。鉦の音が聞こえなくなつたら死んだと思つてくれといつた。鉦の音は五、六日聞こえていたという。子供の夜泣き、喘息にタバコをあげてお参りすると治るといわれた。小学校に通学している頃になると巷タバコがあげてあり、煙があがっていた。（岡一彦 大正十二年生）」（「水原郷土誌料 第七集「昭和五十年、水原教育委員会」）。「昔、一人の托鉢僧が、どこからともなく現われ、畠の中へ小さなわらぶきの掘立小屋をたて、毎日托鉢をして村々

を廻り、幼い子どもたちを見ては鼻汁を啜ってやり、風邪や病気の子どもを、いろいろ手をつくして癒していました。あるとき、死期の近づいたのを知った僧は、自分の墓穴を掘り、好物の炒米、炒豆、烟草などを持つて棺に入り、棺の上に節を抜いた竹を息穴として立て、鉢を打ち、念佛をとなえ生きながら埋つたのだそうです。

その後幾百年もの間多くの人々に信仰されて、線香の煙が絶えませんでした。」（「水原の歴史風土」平成三年水原町教育委員会）などと伝承されている。



無為信寺
左側に経蔵の屋根が見える



入定塔（行人塚）部分



日本回国供養塔（左）と入定塔

新潟地区見学会報告

大圓寺にみる湯殿山信仰

新発田市 佐 藤 榮 征

平成二十九年五月二十二日、本会の巡検で午後には中央区新島町の真言宗豊山派大圓寺に参り、住職斎藤賢祥師から湯殿山信仰についてレクチャーを受けた。稀な見分なので概要を記録しておこう。

この寺は寛文三年（一六六三）修驗道湯殿山大日坊系の寺として古町に発足したが、戊辰戦争で被災し現在地に移転したものである。

この信仰を世間に鼓吹したのが当山の観海上人であり、参道右には上人の塚（碑）と頌徳碑が設けられ、本堂内には和上の即身仏や「お沢仏」が祀られている。入堂は、檀信徒以外は謝絶されるが、この日は「石仏の会」の善男善女ということで許された。観海上人は出羽（鶴岡市大綱）の生まれで同所の大日坊で修行し、明治二年大圓寺の住職に就き教化に励んだ。「人の世の苦悩を引き受けよう」との趣旨で五穀十穀断ちのあと、明治十一年（一八七八）八月、境内に掘らせた穴に入つて他界（入定）した。享年は五十二歳であった。

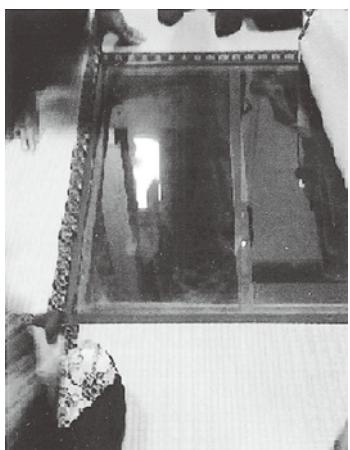
弟子たちが遺骨を拾い即身仏に仕立てて祀り、彼が湯殿山の沢巡りの要所で顯現、感得したという幾つかの仏像を造つて奉祀している。

湯殿山は密教の本尊、大日如来が居ます

所として、江戸期以前から尊ばれてきた。

しかし、維新政府は明治四年神仏混公を否定し、修驗道を禁止した。この影響で現地の寺は殆ど神社となつた。「お沢仏」の作は、修驗道側の態勢巻き返しの方策であろう。

当山のお沢仏は本堂内陣右上の棚に鎮座



上人が入った穴
(ガラス張りで本堂内に保存されている。)



観海上人塚

正在市内や阿賀北でお沢仏は沼垂の悉地院、北区長戸呂の大日堂、或は胎内市築地の惣持寺観音堂、村上市塩谷の円福寺などに所在している。後者二力寺の像は高さ一メートルもあり、極彩色に塗られた豪華なものである。

新潟市内や阿賀北でお沢仏は沼垂の悉地院、北区長戸呂の大日堂、或は胎内市築地の惣持寺観音堂、村上市塩谷の円福寺などに所在している。後者二力寺の像は高さ一メートルもあり、極彩色に塗られた豪華なものである。

【法華經の構成・二八品(章)に合致】であるから定数より少ない。信仰の要点は「お沢仏を拝めば、沢巡りの功徳に与れる」というのである。

戦前（一九四五年以前）

まで、この信仰は盛んだつたし、現在も一部寺院は湯殿山参りを奨励している。



大圓寺のお沢仏

下越新潟地区探訪会

三国街道 中の道 探訪

一胎内市黒川から村上市荒川一

村上市 須 藤 多己也

十月五日好天に恵まれた秋の一日、下越新潟地区探訪会に参加しました。今回は胎

内市黒川から村上市荒川を廻りました。新潟駅南口を出発して途中、道の駅豊栄で一人、胎内市役所で三人乗車し総勢十八人の見学会。

最初に黒川郷土文化伝習館で二七忌墨書き養塔婆等を見たあと、すぐ近く羽越水害殉難者の冥福を祈つて建てられたという八葉蓮華台に立った青銅製の大きな胎内觀音を参拝。その下の帰林殿には童女石と呼ばれる女の子の顔が浮き出た石があり、水害



東岸寺・五尊板碑（荒島）

の伝承を語つているのだろうと思った。

次に塩谷の火焚き地蔵を見学後、ほど近くの下館で昔の渡し舟の目印だったという大きな櫻の木があり、その根元に種字のバシと水精天と刻まれた碑があり、近くに阿弥陀三尊三群種字の碑、四百年以上も昔の彫り物としては比較的見やすい碑だつた。黒川の長谷寺を廻つて昼食。国道七号と国道一一三号の交差する所のうどん屋で天麩羅うどんを食す。これは旨かった。

午後は荒島の東岸寺で五尊板碑を見る。阿弥陀三尊の種字を莊嚴種字体というのだが、それが変わった形で彫つてあつた。すぐ隣集落、春木山では路傍に市指定の石仏が二体あるが、民家の前にある一体は野ざらしで風化が激しく形だけだつた。

少し離れて佐々木集落に移動。こここの神社には沢山の石造物があつた。宝篋印塔にお経かな……が刻んであるが読めない。



佐々木の「つか様」堂内

国道七号を横切つて松山集落の「つか様」と呼ばれる石碑が安置されているお堂に行く。ここに「つか様」という石仏のあることは十数年前に知り、二回ほど見に来たのだが何時も鍵がしてあって中は見られなかつたが今回はこの見学会の為に同地区的区長さんが鍵を開けて下さつたので中の石仏二体を拝見することが出来た、もののに書いてあるように字は読みとれなかつたが、私の長年の願いが叶つて良かつた。

終わりに大津の延命寺で庚申・山神・法華供養塔を見学し最後に記念写真を撮つてもらつて帰路についた。我々三人は胎内市役所で下車しましたが、今日一日、一緒に見学させて頂いた皆さんにお世話になりました。最後に幹事さんご苦労様でした、楽しい一日でした、また御一緒できますよう宜しくお願い致します。

下越新潟地区見学会

新潟市西堀通りの石仏散歩

柏崎市 渡 邊 三四一
五月二十二日（月）、県都・
新潟市繁華街の石仏めぐりに参
加した。



不動院の千手千眼観音前にて

古町の田舎家で鮭のわっぱ飯を頂き、午後から湯殿山信仰の大圓寺、湊稻荷神社の願掛け狛犬、真淨院の二十六夜塔などを見学。さわやかな初夏の風の中、新潟市街の石仏を堪能した。ご案内頂いた星さんはじめ関係者の皆様、ありがとうございました。

眼を施し、おおらかな母性を感じさせる表情に魅せられた。白山神社には四十八基もの石造物があり、石灯籠や道標、石鳥居や狛犬には海運で栄えた湊町らしい個性が窺えた。神社奥には餅つき姿の双体道祖神や毎朝信者が卵を奉納する蛇松神社があり、そこで卵回収のかわいい巫女さんにも出会えた。



蛇松様の奉納卵を回収する巫女さん



白山神社で解説を聞く参加者

中越地区見学会報告

小千谷の石仏と文化財巡見

小千谷市 広井忠男

秋晴れの一日（十月二十六日）行われた。テーマの一つは山村に生き続ける石仏信仰民俗であった。五箇村の親村であった小千谷市小栗山区は奈良時代以前から豪雪の山村に暮らして来た。北は長岡に、東は山古



いまも祭礼存続の二十三夜塔の前で（小栗山）

志村に境している。約四〇体の石仏があり、二十三夜講（七月）は現在も続いている。火葬場には死者供養の如意輪、見守り地蔵尊が今も残る。廻国放浪の作仏聖木喰の三五体觀音堂（県文化財）胸に抱っこをして記念写真。午後には木喰遺作六二〇体中唯一の大日如来石彫仏（全高一四〇cm）を見学。

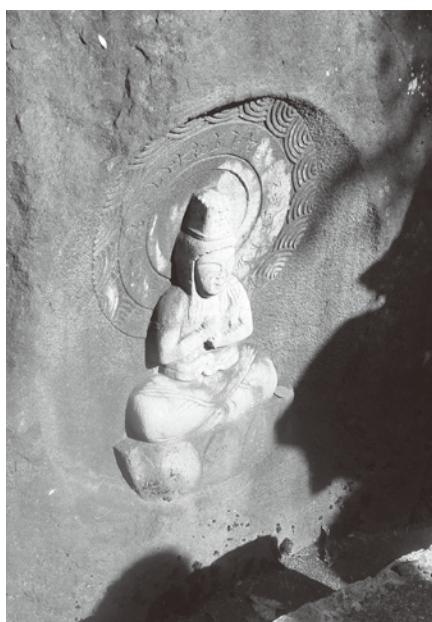
昼は小千谷名物天ぷらへぎそば（コーヒー、新香付）で頂き、松井市教育長（元県庁文化行政担当）の歓迎の挨拶を頂いた。午後は小千谷縮と信濃川舟運で繁栄した小千谷町衆の財力と文化を背景とした中心部古刹の石仏群を見学した。

この日のもう一つのテーマ北越戊辰

戦争、明治維新であった。官軍代表と河井継之助の政治交渉が行われた真言宗古刹慈眼寺及び境内の石仏、徳富蘇峰の小千谷談判記念碑（三m余）を巡見。車窓からは激戦地朝日山、長岡藩境の榎峠、雪峠戦場跡を見学した。後半は川井地区妙高寺の国重文・愛染明王木像を高野御住職の説明で拝観。圧倒される名作であった。名園の境内

にも多くの石仏があった。

小千谷伝統産業館でユネスコ世界遺産の小千谷縮、仏壇、みやげを見て四時駅で解散。二十三名参加。補完説明渡邊三四一氏、会計山崎利雄氏、点呼誘導加藤賢治氏、全體の案内・説明は広井忠男が担当した。ご協力ありがとうございました。御満足いただけましたか。



木喰の大日如来石像



木喰仏とのツーショット

津南町石仏見学会の実施報告

津南町 桑原和位

十月二十二日（日）、二十三日（月）の両日に津南町の石仏と中世時代の山城跡（発掘中）を、日本石仏協会・新潟県石仏の会の皆さんに紹介しようと計画しました。両日とも、予報では台風さなか。でも、津南町はわるくて雨台風だらうと判断して、「雨天案」で決行しました。石仏中心の晴天案の案内ができず、参加者にはご不満だったろうと推察いたします。

●西国霊場三十三所の観音像が、お堂のボヤでの持ち出しと、子どものおもちゃで破損した状態を見て頂きました。

●津南町では最古の古刹である「正宝院」の六体の明王と境内の石仏群を雨の中での探訪をお願いしました。

●赤沢集落では小雨のなか、庚申信仰の石仏・阿弥陀三尊梵字碑を案内しました。

●中子集落では、耕地の開発にともない散在していた石仏をお堂の境内に集めて祀つた様子を見学してもらいました。

●「農と繩文体験実習館・なじょもん」では、津南町が推進しているジオパークについて説明いたしました。

いて説明いたしました。

ただいま

た。

●「歴史民

俗資料館」

では、津南町で発掘された縄文土器や秋山郷の民俗資料

を案内しました。



岩船地蔵と六地蔵（赤沢集落）



「なじょもん」での展示解説

つきり見える「石落とし」を案内し、秋の景観をも満喫してもらいました。

●中世の山城「今井城」跡を発掘調査中でしたので、良い機会だと思い、晴雨にかかわらず案内することで話題合っていました。

今井城跡は、信濃川右岸、中津川左岸の段丘面の突端に築かれた城です。源平時代の木曾義仲の家臣・今井兼平によつて造られたと伝えられ、上杉氏の番城として戦国時代末期まで使用されていたといわれています。大雨の中、城跡近くまで車を走らせましたが断念しました。

●旅館での日本石仏協会・新潟県石仏の会・つまり石仏の会の三者による懇親会に、説明役を担当してくださった石沢も参加ください和気あいあいの会となりました。参加者は日本石仏協会十八名、県石仏の会八名、つまり石仏の会八名でした。



観音堂内の人頭杖（中子集落）

第二十一回

石仏フォーラムを開催

昨年十一月十九日（日）、新潟県生涯学習推進センターにて、石仏フォーラムが開催されました（会員二十四名、一般七名参加）。以下、概要を報告します。

第一部（十時～）の公開講演では、長谷川勲氏（新潟県地名研究会会長）から「地名と石仏」と題し、特に岩・磐・崖などの地名伝承についての研究成果をご披露いただきました。冒頭に村上市葡萄峠の矢葺明神をあげ、慶長期の越後国絵図に「やふけ

ノ明神」とし尖った巨岩とともに描かれ、他の文献にも夜深明神、やぶけ明神とも記されます。氏はこれを古い地形語でヤは岩の転記で、フケやフキは崖をあらわすとし、ガケ地名の一つと解釈されました。つまりヤブケとは、神仏が宿る磐座を指す語でした。話題は全国に及び時間を超過しての興味深い熱演でした。

第二部（十三時十五分～）は調査研究報告では、渡辺等氏（新潟市）が「新潟県内の道路元標保存に向けて」、野内隆裕氏（新潟市）が「みなとまち・石めぐり」と題し、日ごろの調査成果を豊富な画像とともに発表され、充実した会となりました。



長谷川勲氏の公開講演



渡辺等氏



野内隆裕氏

昨年出版の故・祝勇吉著『佐渡の石仏』の刊行記念展として、昨年十一月、新穂歴史民俗資料館で開催されました。展示室には佐渡の石造文化を特徴づける石神仏の実物や写真パネルはじめ、祝氏愛用のカメラやメジャーなどの調査道具も展示されていて、氏の長年の偉業を偲ぶいい企画展でした。なお、本書は第十回新潟県出版文化賞大賞を受賞。関係者はもとより天国の当人



佐渡の石仏展（新穂歴史民俗資料館）

刊行記念 「佐渡の石仏」展 開催

事務局 だより



◇上越地区見学会のお知らせ

期日	4月29日(祝)
テーマ	北国街道Ⅲ—石仏謎解き膝栗毛—
集合	①9時50分 直江津駅南口
	②10時15分 高田公園博物館前駐車場
見学地	稻田～下門前～春日新田～黒井
昼食	直江津駅前「多七」(名物めぎす丼)
解散	①16時 直江津駅南口 ②16時15分 高田公園博物館前駐車場
参加費	1000円(昼食代別)
定員	15名
申込み	下越・新潟地区事務局 大木禊爾
電話	0256-72-6913
携帯	090-1157-5936

◇平成30年度総会の「J案内(予報)

日時 5月20日(日) 13時～16時30分
会場 アオーレ長岡

長岡市大手通2-6 (長岡駅より徒歩5分)

第一部 公開講演会(13時～14時30分)
第二部 総会

平成29年度事業報告・決算報告
役員改選について

平成30年度事業計画・予算(案)

◇会費納入のお願い

平成29年度会費未納の方に振込用紙を同封しました。至急お振込願います。

※詳細は後日往復はがきにてご案内し、出欠等を確認します。

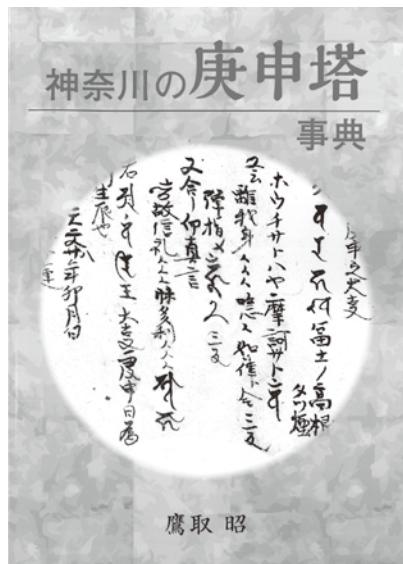
集合 10時 旧庄屋・佐藤家駐車場(福井)
(電車の方はご相談ください)

◇写真展「森町地区のいしぶみたち」開催

とき 3月25日(日)まで 無料
ところ 三条市下田郷資料館
三条市飯田1029-1
電話 0256-46-5110

◇寄贈図書紹介

神奈川県藤沢市在住の鷹取昭氏(日本石仏協会会員)より労作『神奈川の庚申塔事典』(A4判・一五二頁・カラー)の寄贈を受けました。非売品。



◇新潟・下越地区見学会の「J案内

日時 5月25日(金) 10時～15時
テーマ 新潟市西蒲区福井の石仏探訪

※詳細は別紙チラシをご覧ください。

第三部 懇親会 17時
第四部 情報交換

※詳細は後日往復はがきにてご案内し、出欠等を確認します。

編集担当

下越・新潟地区事務局